

アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

皆で市川市のサッカー文化を築きましょう！

令和元年度がスタートし、早3か月経ちました。

4月の「北ライオンズクラブ杯」に続き5月の「4年支部大会」「わんぱくデボカップ」と滞りなく無事開催することができました。ご協力ありがとうございました。また年間を通して行われる「U12 女子サッカー教室」と「サッカー教室(指導者講習会)」も計画通り進められており、関係の皆様へ感謝申し上げます。

さて先日7月13日に国府台スポーツセンター陸上競技場で行われた、本年度第3回目の「U12 女子サッカー教室」と「サッカー教室(指導者講習会)」に参加してきました。参加といっても見学ですが…。

これらの催しは、中国分スポーツ広場の閉鎖に伴い、昨年度から国府台スポーツセンター陸上競技場をシェアして開催しています。大人用ピッチの半分を大人が指導者講習会で使用し、残りの半分をサッカー少女がサッカー教室で使用します。

人工芝の上で、ミニゲーム等でサッカーに興じるサッカー少女達の向こう側で、サッカーの指導を真剣に楽しみながら学習している大人達がいる。これは私達の一つのサッカー文化だと嬉しく思いました。加えて「U12 女子サッカー教室」で女子にサッカーの指導をしている方々は、子どもはもう卒業している市川FCレディースの保護者の方々でした。

実はこの方々もかつて「サッカー教室(指導者講習会)」に参加し、子どものためのより良い指導を学習した方々です。大人が、子ども達のためにサッカーを楽しめる場づくりをし、子ども達がサッカーを楽しみながら上手になることができるような指導法を学習し、自分の子どもが卒業しても次の子ども達のために関わり続けていること。これは市川市サッカー協会第4種委員会の深いサッカー文化だと深く頷いた次第です。

と、いい気分もつかの間。右のような文章が千葉県サッカー協会4種委員会の掲示板に投稿されていると教えて下さる方がいました。

一読して、やるせない気持ちになりました。「陰に隠れて、まだこんなクラブがあるのか」と悲しくなりました。

しかし、詳しく読んでいくと、「最後の大会」とは？シャポーカップはまだまだ先だな。だとすると松木杯？これは6年を先に出さなければならない規則だから当てはまらないな。だとすると北ライオンズクラブ杯でそのようなことが行われていたのか、そもそも「当該学年の出場を妨げない」のはすでに当たり前のことだろう等思いが巡りました。

「最後の大会」「最後の試合」がどの大会、試合を指すのかはよく分かりませんが、この方が選手の起用法について不満をお持ちなのはよくわかりましたし、ご不満はもっともだと思います。

皆さんはどう思われますか、私は、もし、この方の言うとおりの選手起用がなされているとしたら、このクラブは私達が築こうとしているサッカー文化に反していると強く思います。

しかし、私はどうしても「当該学年の出場を妨げない」ことを反故にし、勝つための選手起用をしている確信犯のクラブがあるとは思えません。もしかしたら、代表者の知らないところで行われているのかもしれませんが、各クラブの代表者、コーチはこの投稿をぜひクラブ内で話題にいただき、「**当該学年の出場を妨げない**」という**当たり前のこと**を再確認していただきたいと思います。そして、伴にすべての子ども達がサッカーを楽しめるサッカー文化を築いていきましょう。よろしくお願いたします。



6年最後の大会について

学校サッカー 2019/07/11(木) 18:47

現在6年になる子供がおります。市川市内で6年生を対象に開催される大会で、勝つ事を目標とし6年生であっても試合に出さず、代わりに5年生を試合に出すサッカーチームに所属しています。クラブチームではなく、学校の校庭を利用している学校名をチーム名としているサッカーチームです。

個人的な考えですが、6年生最後の試合に、人数割れを補う為に他学年を試合に出すのは理解できます。しかし、息子のチームは人数も多い中、6年生ではなく、他学年が試合に出ております。